

# 継続事業評価調書

## 【農道整備事業】

基幹農道 蔦沢菅野地区

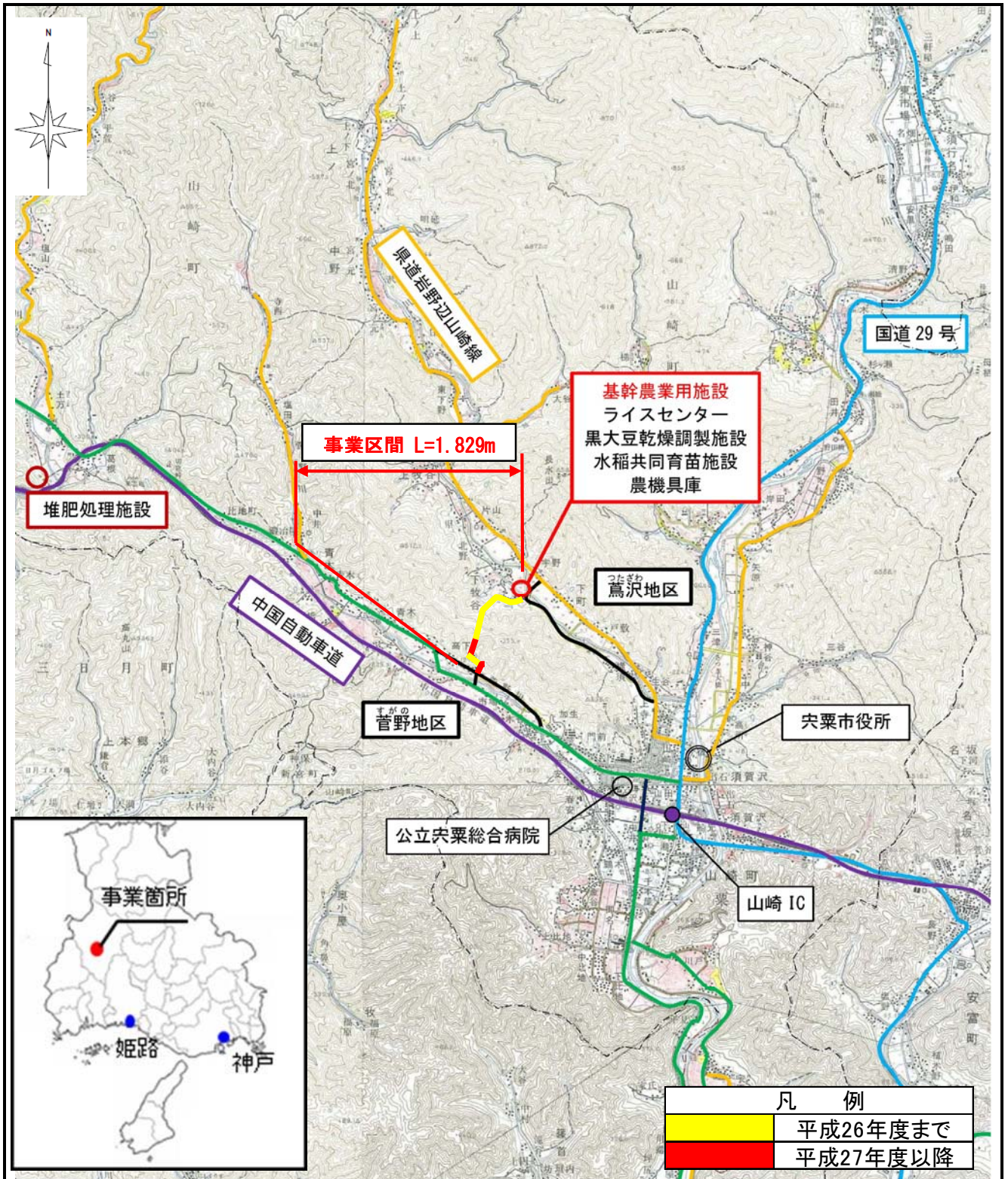
農政環境部

農林水産局 農地整備課

投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	農政環境部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 石井 龍太郎 (主幹 神木 哲生)	内線	4003 (4014)
事業種目	農道整備	新規評価年度	H12		現計画
事業名	基幹農道整備事業 つたざわすの 蔦沢菅野地区	事業採択年度	H17	総事業費	19億円
		着工年度	H17	内用地補償費	1億円
事業区間	宍粟市山崎町下牧谷～高下 しもまきだに こうげ	完成予定年度	平成28年度	新規評価時	平成17年度
		進捗率 (用地補償進捗率)	72% (100%)		—
		残事業費	5億円		—
事業の目的				事業内容【】：新規評価時点	
宍粟市山崎町にある基幹農業用施設（ライスセンター、水稻共同育苗施設、大豆乾燥調製施設）のアクセス道路の新設により農産物等の搬出入の効率化を図るとともに、農村環境の改善による地域の活性化を図る。 ○輸送のコスト縮減と効率化 農畜産物の輸送時間の短縮や運搬車両の大型化により、輸送コストを節減し生産性の向上を図る。 ○災害時の安全性の確保 農道の整備により、災害時における輸送路・迂回路や通勤等の生活路を確保して、生活環境基盤の安全性の向上を図る。				延長：1,829m【2,540m】 内トンネル482m【450m】 道路規格：第3種第4級 幅員：2車線 車道5.5m 全幅7.0m 計画交通量：737台/日(H35予測) (農業501台、農業外236台) 受益面積：966ha 負担割合：国:50%、県:35.7%、市:14.3%	
事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	① 農業の競争力強化が求められる中、生産性向上を図るため、農地の条件整備の一端として農産物の効率的・安定的な輸送経路を確保する基幹農道の整備が必要とされている。 ② 防災意識の高まりから、山崎断層等の大規模地震に備え、災害時等の輸送路・迂回路の必要性が改めて見直された。 【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 ① 道路縦横断計画等の見直しによるルート変更により、総事業費が4億円減額となる。 ② 国が農道事業の採択を一時凍結したことにより、採択が遅れた（H13→H17） ③ 国の農道事業予算が縮減されたことで新設農道にかかる予算の見通しが立たず、平成22年度～平成24年度まで主要工事を休止したため完了を平成28年度に変更せざるを得なくなった。				
進捗状況	① 用地取得が平成22年度に完了している。 ② 全体延長1,829mのうち平成26年度に1,476mが完了見込み(供用区間無し)。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (H12年度新規評価)	【審査会意見】新規着手妥当 豊かな自然を保全するため環境調査を行い、 ① 自然環境への影響を軽減すること ② 景観に配慮すること	【対応方針】 平成16年に環境調査を実施。 ① ナガバノイタチシダが存在し、水源や動植物の生息環境を確保するよう配慮を行った。 ② 小動物脱出用側溝の設置や景観に配慮した防護柵の設置を行った。			
(1) 必要性	① 本地区では米、麦、黒大豆の本格的な生産の推進に取り組んでおり、農道起点部の基幹農業用施設は西播磨地域の中核的な施設で、広域的に農作物の集出荷を行っている。この施設へのアクセスは、慢性的な交通渋滞が生じている国道29号から幅員が狭小かつ交差点の多い県道岩野辺山崎線を経由するため、輸送効率が悪く、改善を図る必要がある。 ② 宍粟市では安全・安心な農産物の生産を進めるため、堆肥の農地還元を推進しており、その輸送ルートの確保が必要である。 ③ 蔦沢地区へのアクセスルートは県道岩野辺山崎線しかなく、災害時及び緊急時の輸送路・迂回路としての役割が期待されている。				
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	① 総費用総便益比 B/C=1.2【新規評価時点 B/C=1.1】 ② 大型車が円滑に通行できる輸送体系が確立され、農産物等の集出荷の効率化につながる。 ③ 用地取得が完了し、地元推進協議会より早期完成が要望され、執行環境が整っている。				
(3) 環境適合性	① 小動物等の生息環境に配慮したスロープ付きの排水路を設置する。 ② 景観に配慮した防護柵を設置する。 ③ 法面の緑化には、生態系や在来種への影響の少ない植物種を選定した。				
(4) 優先性	① 農業の競争力強化のためには農産物等の効率的な輸送基盤の整備が必要であり、本農道の事業実施の優先性は高い。				
再評価の結果	継続	理由	事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、用地買収も完了しており、早期完了を望む地域からの要望は依然として強いことから、継続して実施する必要がある。		

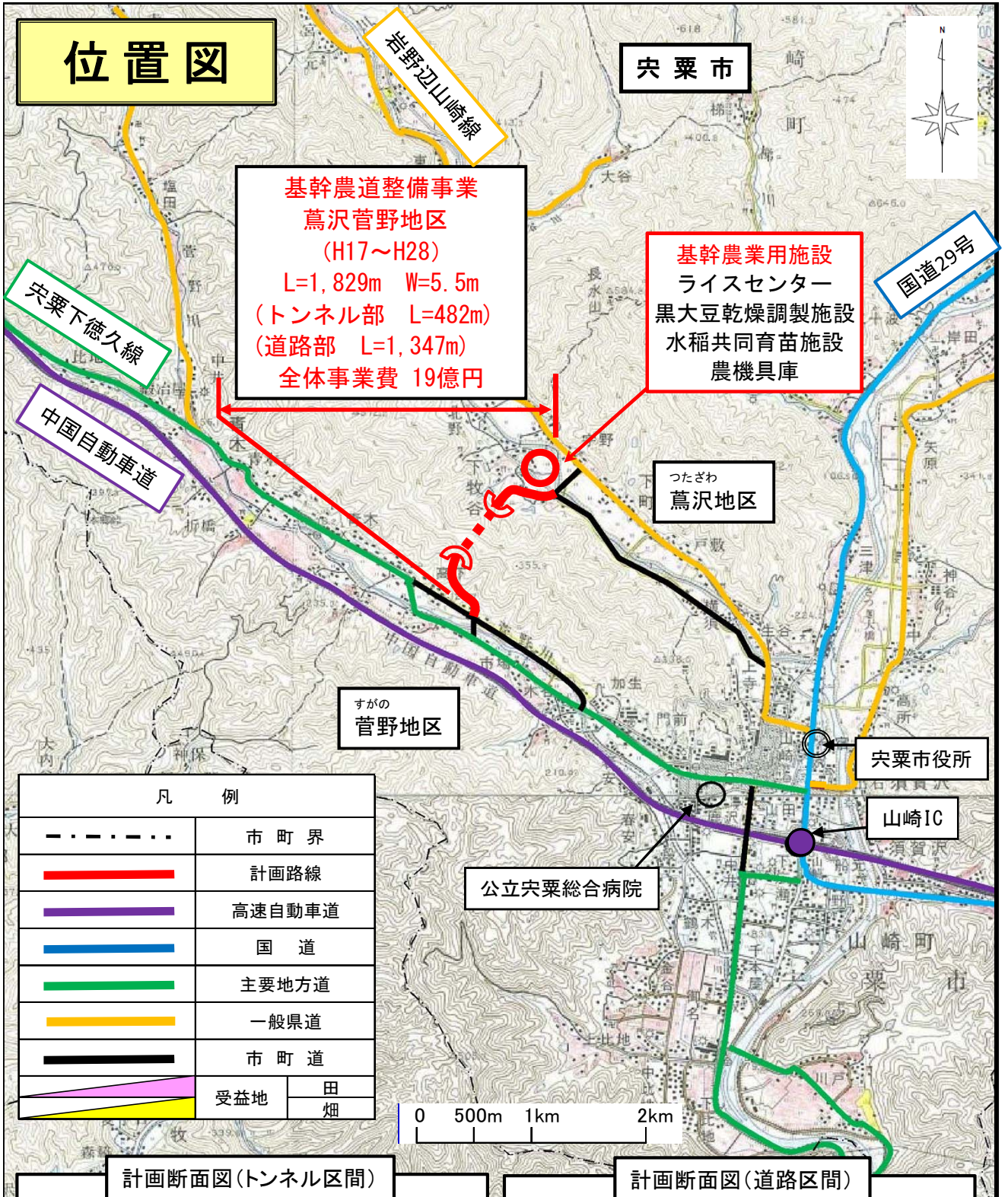
事業進捗状況概要図（継続：再評価）



	事業進捗状況・予定	整備効果
全体 (H17～28年度)	<b>【事業費＝19億円】</b> 農道新設 延長 1,829m 受益面積 969ha 全幅 7.0m 車道幅員 2.75m×2 車線	
事業採択 ～H26まで (H17～26年度)	<b>【事業費＝14億円】</b> 用地買収進捗率 100% 整備延長 道路工：1,084m、トンネル工：392m	
今後 2年間 (H27～28年度)	<b>【事業費＝5億円】</b> 整備延長 道路工：263m、トンネル工：90m 舗装工：1,829m	<ul style="list-style-type: none"> <li>農産物等の円滑な輸送</li> <li>循環型農業の推進</li> <li>農村環境における利便性や安全性の向上</li> </ul>



# 位置図



## 基幹農道整備事業

蔦沢菅野地区

(H17~H28)

L=1,829m W=5.5m

(トンネル部 L=482m)

(道路部 L=1,347m)

全体事業費 19億円

## 基幹農業用施設

ライスセンター

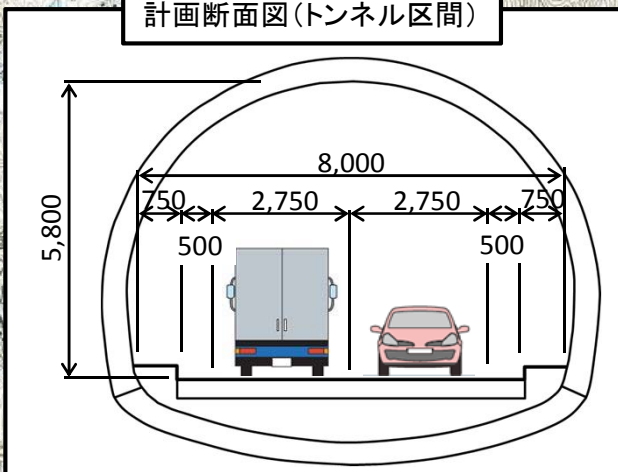
黒大豆乾燥調製施設

水稻共同育苗施設

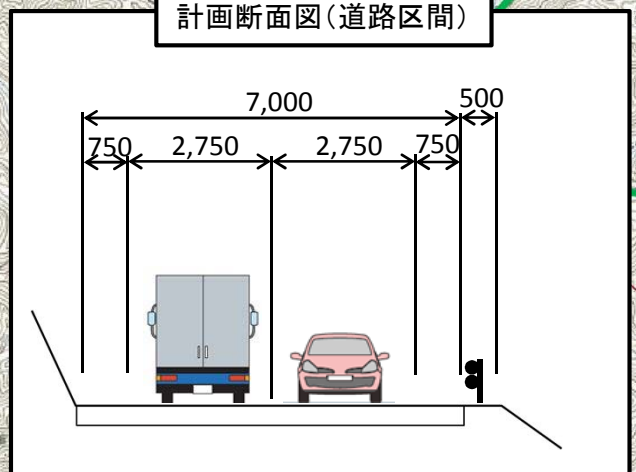
農機具庫

凡 例	
--- --	市 町 界
— — —	計画路線
— — —	高速自動車道
— — —	国 道
— — —	主要地方道
— — —	一般県道
— — —	市 町 道
— — —	受益地
— — —	田 畑

計画断面図(トンネル区間)



計画断面図(道路区間)





# 基幹農道整備事業 蔦沢菅野地区の整備状況(平成26年8月現在)



## 1 スケジュール

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
設計	■	■			■	■										
用地補償		■	■			■	■	■	■	■						
道路工			■	■	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	
舗装工					■										■	

■ : 当初計画  
■ : 実施・計画

## 2 事業効果について

### (1) 費用対効果

#### ① 便益 (B) の項目

事業	B(便益)	算出方法
農道整備	① 営農にかかる走行経費節減便益 ○ 農産物等の輸送等にかかる時間短縮による便益	整備無し of 走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma((\text{通作時間} + \text{輸送時間}) \times \text{時間当たり経費})$
	② 一般交通経費節減便益 ○ 一般交通にかかる時間短縮による便益	整備無し of 走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma((\text{走行時間}) \times \text{時間当たり経費})$
	③ 維持管理費節減便益 ○ 施設の維持管理に要する費用の節減による便益	整備無し of 維持管理費 - 整備有りの維持管理費

#### ② 費用便益比 (B/C) 算出根拠

事業	事業名	B(便益)		(費用)	(費用)	(費用)	B/C
		便益額 (百万円)	代表的な効果	C総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
農道整備	基幹農道整備事業 全体事業費	① 営農にかかる走行経費節減便益	1,219	農業輸送等の走行時間短縮 農業輸送等の労働時間短縮	1,890	1,991	1.19
		② 一般交通経費節減便益	1,081				
		③ 維持管理費節減便益	-47				
		計	2,253				

費用便益比算定: 「土地改良事業の費用対効果分析に関する基本指針の制定について」(農林水産省農村振興局長通達)

### (2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ① 地震等の災害発生に備え、迂回路、避難活動、救援物資の輸送、その他緊急車両の移動などの交通需要に対応する。
- ② 救急病院への搬送時間短縮により、救急患者の生存率向上が図られる。
- ③ 交差点が4箇所から2箇所に減少するため安全性の向上が図られる。

## 基幹農道整備事業の効果

対象事業：基幹農道整備事業 蔦沢菅野地区

### (1)費用対効果

効果項目（費用対効果の便益内容）
営農にかかる走行経費節減効果 (走行速度向上等による時間短縮により、農畜産物の流通にかかる輸送経費が節減)
一般交通等走行経費節減効果 (農道新設によって流入が想定される一般車両の輸送経費が節減)
維持管理費節減効果 (農道の新設により舗装等の維持管理経費が増加(マイナス効果))

### (2)費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)	○	公立宍粟総合病院へのアクセス道路 (宍粟市唯一の基幹病院)
		救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)	○	緊急時には県道岩野辺山崎線が混雑すると想定されることから、迂回路としての機能確保
		減災対策への取り組み (※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	○	山崎断層等の地震が発生した際の避難路としての機能確保
	平時	救急医療体制の支援	○	公立宍粟総合病院へのアクセス時間の短縮
		交通安全対策	○	交差点が減少するため、安全性の向上が図られる。
②地域の活性化	地域間交流の促進	○	宍粟市蔦沢地区と菅野地区の移動時間短縮による交流の促進	
	中心市街地の活性化	—	—	
	地域産業の活性化	○	地域農業の活性化	
	観光支援	○	宍粟市主要観光施設へのアクセス強化	
	地域プロジェクト等支援	—	—	
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	○	コミュニティバスや介護タクシーが走行可能となるなど、円滑な交通体系の確保	
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	—	—	
⑤その他	文化財発見効果	—	—	

### (3)地域からの要望状況等

要望状況等	<p>①本事業は、地元の要望によって施行されている事業であり、地元自治会、JA、市で構成する推進協議会（蔦沢菅野線推進協議会）が設立され、事業推進に向けた調整・検討を実施している。</p> <p>②全線開通による効果が大いことから、推進協議会からも早期完成に対する強い要望がある。</p>
-------	--